

多面的機能支払交付金制度について

多面的機能支払交付金制度の概要

●地域共同で行う、農村の多面的機能を支える活動や、地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図る活動の経費を支援する制度

●対象地域 集落を基本とした一団の農用地を対象とする

●活動組織 集落を基本とした、地域住民(老若男女、農家・非農家)、各種団体(土地改良区※等)より構成

●山形県の取組状況(令和4年度現在)

県内農用地の70%をカバー（取組面積 約84,000ha、組織数 827）

●活動内容

活動内容は地域の話し合いにより決定



このため、

- ・集落内のどこに課題があるか
- ・誰が対応するか
- ・地域をよりよくするために何をしたいかなどが議論され、集落の総意として活動計画が作られる

※土地改良区の支援

- 組織の事務支援
- 長寿命化の技術的支援
- 構成員として参画する場合有



地域資源の基礎的保全活動の例



施設の点検



水路法面の草刈



貯水機能発揮のため池浚渫



農道の路面補修

地域資源の質的向上を図る共同活動の例



水路目地補修



植栽活動



環境保全学習(稚魚の放流)



伝統文化の保存・継承

施設の長寿命化のための活動の例



素掘水路からコンクリート水路へ更新



老朽化した水路壁のコーティング



未舗装農道をアスファルトで舗装

多面的機能支払交付金制度の効果

- この制度は「地域の話合い」を定期的に行わせる効果があり、その結果、地域ビジョンを考える基礎を形成させる
- 担い手農家への農地集積という構造改革を後押しする
- 多面的機能支払交付金制度による共同活動はSDGsにも貢献している

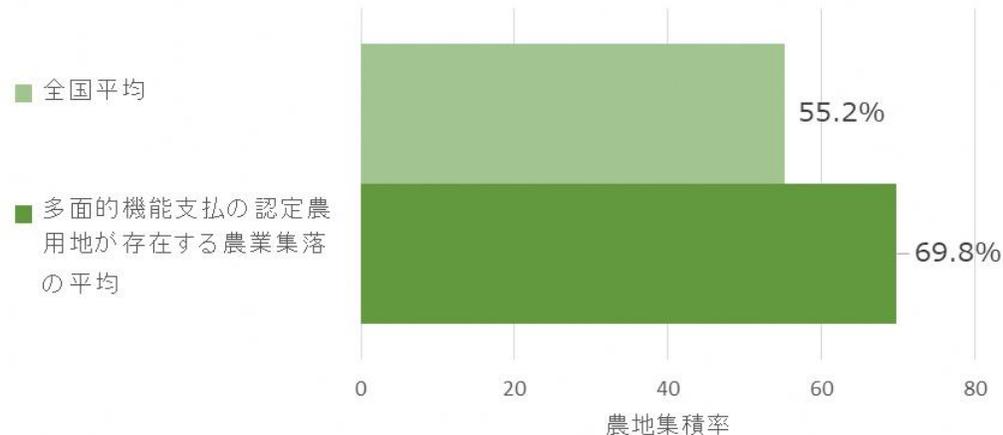


地域コミュニティの維持・強化への貢献



資料：2010年及び2015年の農林業センサスより作成

構造改革の後押し等地域農業への貢献



資料：経営局「日本の農地集積状況(平成29年度)及び平成30年度活動実態調査より作成

地域の維持管理の取組が変革を受け入れるベースとなる

多面的機能支払交付金制度の具体的活動事例(みさと田園空間クリエイターズの活動)

組織概要

- 組織経緯 平成19年度より取組を開始し、平成28年度に6組織を統合して現在に至る
- 取組面積 514ha (水田 441ha、畑 73ha)
- 管理施設 農業用排水路 71.1km、農道 74.0km
- 構成員 個人 168名 (農業者 116名、非農業者 52名)
団体 71団体 (三郷堰土地改良区、JA、町内会、子供会、老人クラブ 等)
- 活動場所 山形県天童市



具体的活動事例

- 地域の話し合い 開催日：平成29年3月26日
参加者：役員及び構成員30名

- 話し合いの課題 高齢化等による草刈作業等の負担軽減化
- 意見 非農業者の参加促進ラジコン草刈り機の導入、防草シートの設置など

- 対応 防草シートの設置、非農業者への参加要請
- 結果 草刈作業等の負担軽減、参加者確保を実現することができた



- 活動月日 令和4年4月29日
- 活動事例 水路の泥上げ
- 参加人数 162人



- 活動月日 令和4年7月17日
- 活動事例 水路法面の草刈り
- 参加人数 222人

